

# 路上生活者の個人史

竹中尚文

「セッタ」が亡くなったことを聞いたのは、2020年2月だったと思います。今年の冬は暖冬でしたが、路上で眠るには厳しい季節です。朝になって、歩道の片隅で息絶えている「セッタ」が発見されたそうです。「セッタって、誰ですか?」「セッタって、いつも雪駄を履いていたヤツですよ。憶えてないの?」と。私は「セッタ」の本名を知りません。どんな人生であったかも知りませんでした。

路上生活者は誰にも看取られず息を引き取ることも少なくありません。その人の人生を振り返るような葬儀を営まれることも殆どありません。人生を振り返る人もいないまま、忘れ去られるのは悲しいことです。はじめから、その人がこの世にいなかったかのようです。人生が誰の記憶にも残らないのは人間としての存在を否定することに思えます。ここで、こんな人生があったという記録を少しでも残したいと思います。

## 第1回

中田 浩 氏

1950年4月1日生まれ

私は、1950年4月1日に生まれたことになっています。この日は、私を育ててくれた孤児院の院長さんが決めてくれたのです。本当の生まれた日も生まれた場所も誰から生まれたかも私は知りません。私は、この頃に孤児院の前に捨てられていたようです。だから、私には戸籍がありません。戸籍がないか

ら、コロナで国民全員がもらった10万円も頂けませんでした。

本当のところ、私に記憶がないのですから、何も分かりません。物心がついた頃、私は孤児院で暮らしていました。その孤児院は、近畿地方のある県にありました。今、孤児院と分かりやすく知っているだけで、普通の家には私のような子どもが何人か暮らしていました。普通の家といっても長屋のような建物

の一軒です。出生について何も知らないのは、私が「捨て子」だったからだと思います。それを誰も否定してくれないのは、私が「捨て子」だったということでしょう。

中学校を卒業して、集団就職で大阪に出てきて自動車工場で働きました。自動車が好きというより、憧れだったのです。中学卒業までは、ボクシングをやっていました。ボクシングが好きだったわけでもありません。何かを目指してではなくて、若いエネルギーをもてあましてのボクシングでした。だから、就職をしてからボクシングを続ける気持ちもありませんでした。

結婚？ 結婚はしようと思った事ありません。そんな機会もありませんでした。

いつの間にか、裏社会で暮らすようになっていました。20代の頃でした。私はクラブのボーイをしていました。クラブのオーナーが大型の輸入車に乗ってお店にやって来るのです。自動車好きの私はその車を眺めているだけじ

ゃなくて、空き時間にチョットした汚れを落とすようなことをしていました。それに気が付いたオーナーは私に小遣いをくれたりするようになりました。その人には、ずいぶんと目を掛けてもらいました。いつの間にかその人の組員のようになっていました。私は正式に組員になったのでもありませんでした。杯を交わして組員になったのではありませんでした。だから下働きのようなことをあまりしていません。そのために他の若い組員からあまりよく思われませんでした。

いつの間にか中年になっていました。その頃、「何とか戦争」だと言って、抗争事件がありました。怖くないかと言われれば、それは怖いですよ。殺し合うのですから、かなりの恐怖心です。だから、お酒やクスリでその気持ちをごまかしたりする人がいるのです。私は「呑む・打つ・買う」はしませんでした。しかし、その抗争で私は人を殺めることになりました。そのため、私は40歳頃から約20年間、刑務所で過ごすこと

になりました。刑務所から出て、すぐには生活に困るようなことはありませんでした。私がいたのは大きな組織だったので、他の人のようにいきなり路頭に迷うようなことはありませんでした。しかし、時代の変化と周囲の人たちの高齢化でしだいに暮らせなくなりました。少しずつ、屋根の下で寝られない日々が始まり、路上生活をするようになりしました。

今は、河川敷の目立たない場所で柱を立ててブルーシートを張った所で暮らしています。この10年間でたくさんの人を送りました。路上生活者もずいぶん減りました。先にも言いましたように、私は飲酒をしないので何とか生活ができていればいいのです。というか、生きていればいいのです。あとは安らかにこの世を去りたいのです。寝ている間に目が覚めなかったというのが望みです。この生活が快適というわけではありませんよ、今でも子どもたちに花火を打ち込まれたり、おもちゃの鉄砲で撃たれたりするのです。おも

ちゃといいながらも、あれもかなり痛いものですよ。けども、今の生活に不満はありません。自分の人生を考えたら、「これでエエかな」と思います。今はスッと往けたらなあと思います。それが、今の望みです。